

第1学年1組 道徳科学習指導案

指導者 ○○ ○○

1 主題名及び教材名

主題名「やさしくすると」

B7【親切, 思いやり】身近にいる人に温かい心で接し, 親切にすること。

教材名「はしのうえのおおかみ」(東京書籍)

2 主題設定の理由

内容項目の解釈
<p>「親切, 思いやり」の親切とは, 相手の立場を考えたり相手の気持ちを想像したりすることを通して励ましや援助をすることである。また, 単に手を差し伸べるだけでなく, 時には相手のことを考えて温かく見守ることも親切な行為の表れである。思いやりとは, 相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り, 相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。よりよい人間関係を構築する上では, 互いが相手に対して思いやりの心を持ち親切にすることが不可欠である。幼い人や, 高齢者, 友達など身近にいる人に広く目を向け, 温かい心で接し, 親切にすることの大切さについて考えを深めることを通して, 相手のことを考え, やさしく接することができるようにすることが求められる。また, その結果として相手の喜びを自分の喜びとして受け入れられるようにし, 具体的な親切な行為ができるようにすることが大切である。</p> <p>B7「親切, 思いやり」については, 身近な人に広く目を向け, 温かい心で接し, 親切にすることの大切さについて学習していく。このことは, 中学年での「相手のことを思いやり, 進んで親切にすること」, 高学年での「誰に対しても思いやりの心を持ち, 相手の立場に立って親切にすること」の学習へと発展していく。</p>

児童の実態
<p>本学級の子どもたちは, 友達に対してやさしく接することが大切だと考えている。しかし, 発達的特質から自分中心の考え方をすることが多く, 強い口調や言葉で相手を傷つけたり, おせっかいをして言い争いになってしまったりすることがある。</p> <p>そこで, 家族だけでなく家の周りの人や学校の人々, 友達などとの関わりが増え, 様々な人々の関わりの中から, 相手の考えや気持ちに気付くことができるようになるこの期に本主題を取り上げる。</p> <p>このことは, 親切, 思いやりの価値を感得させるとともに, 自己の生き方を見つめる子どもを育てる上からも意義深い。</p>

教材の分析
<p>本教材「はしのうえのおおかみ」は, 主人公のおおかみが, うさぎたちを相手におもしろがって意地悪を続けるが, くまに親切にされ, 自分の行為を振り返り, やさしい心で親切にするという話である。一本橋の真ん中で自分より小さな体の動物を追い返して意地悪を楽しんでいたおおかみが, 自分よりも体の大きいくまからやさしく抱き上げ橋を渡らせてもらう。この場面において, くまの後ろ姿をいつまでも見つめるおおかみの気持ちを考えさせたり, 次の日, おおかみがなげうさぎにやさしくしたのかなどについて考えさせたりすることから, 意地悪を楽しく感じる人間的な弱さをとらえさせるとともに, 温かい心で親切にする心地よさに気付かせるのに適した教材である。</p>

3 本時のねらい

<p>親切な行為は, 相手をうれしい気持ちにさせるだけでなく, 自分もうれしい気持ちになることに気づき, 身近な人に温かい心をもってやさしく接しようとする態度を育てる。</p>
--







4 本時学習の工夫点

【つかむ段階】	【見出す段階】	【見つめる段階】
<p>事前アンケートの結果をもとに, 友達など身近にいる人にやさしくされているが, 自分ではできていないこともあるという課題をもたせ, 本時学習のめあてをつかませる。</p>	<p>「広げる問い」で, 親切にされたおおかみの気持ちを考えさせた後, 「深める問い①」で, これまで意地悪を楽しんでいたおおかみが親切にした理由を問い, 「深める問い②」で, 温かい心で親切にする心地よさを感得させ, 身近な人に親切にすることの価値について考えを深めさせる。</p>	<p>身近な人に温かい心をもって親切にすることの大切さについて, 自分との関わりで考えさせ, これまでの自分を振り返らせ, これからの自分の展望をもたせる。</p>

5 計画

事前 (課外)	道徳科 (本時)	事後 (課外)
<p>アンケートにより, 学校や学校以外での親切な行為についての経験を想起させる。</p>	<p>教材「はしのうえのおおかみ」を通して, 親切について学習させる。</p>	<p>日常生活において, 親切な行為ができたことを称賛する。</p>

6 展開

段階	学習活動と内容	教師の支援
つかむ	<p>1 事前アンケートの結果をもとに、これまでの経験を想起し、学習のめあてについて話し合う。 〈やさしくされた経験〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・けがをしたときに、保健室に連れて行ってくれた。 ・勉強がわからないときに、教えてくれた。 </div> <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; text-align: center;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px; margin-bottom: 10px;"> <p>自分もやさしくできるようになりたい。</p> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>人にやさしくできる自分を見つけよう。</p> </div>	<p>○ 問題意識をもたせるために、事前アンケートをもとに、友達にやさしくされた経験を想起させ、やさしくされるとうれしくなることを確かめ、価値の方向性をつかませる。</p> <p>○ 本時学習のめあてをつかませるために、やさしくできていないこともあるということをとらえさせる。</p>
見出す	<p>2 教材「はしのうえのおおかみ」をもとに、親切についての価値理解を深める。</p> <p>(1) 教材を読み、場面の状況を把握し、うさぎを追い返して橋を渡ったときのおおかみの気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもしろい。 ・もっとやりたい。 ・いじわるって楽しい。 <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">   </div> <p>(2) くまの後ろ姿をいつまでも見送るおおかみの気持ちを話し合い、自分の考えを広げる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>くまの後ろ姿をいつまでも見送っているおおかみは、どんなことを考えているのでしょうか。 【広げる問い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんで。びっくり。 ・うれしいな。 ・くまさんはやさしいな。ありがとう。 ・くまさんはぼくと違うな。 ・みんな、今までごめんね。 </div> <p>(3) うさぎを抱きかかえ、橋を渡らせたおおかみの気持ちを考え、親切にすることの価値理解を深める。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>どうしておおかみは、うさぎにやさしくしたのでしょうか。 【深める問い①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くまにやさしくされて、うれしかったから。 ・自分もしたくなったから。 ・うさぎも喜ぶから。 ・いい気持ちだから。 </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">   </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>いじわるなにこにこと、やさしくしたにこにこの、どちらが好きですか。 【深める問い②】</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>【いじわるなにこにこ】</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>【やさしくしたにこにこ】</p>  </div> </div> <div style="margin-left: 200px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼかぼか ・うれしい ・いい気持ち </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>やさしくすると、相手がうれしい → 自分もうれしい</p> </div>	<p>○ 意地悪を楽しむおおかみの気持ちに共感させるために、うさぎがおおかみよりも小さく弱い動物であることを確かめ、役割演技を行わせ（おおかみ：児童，うさぎ：教師），おおかみの表情図をかかせる。</p> <p>【広げる問い】</p> <p>○ おおかみの気持ちの変化をとらえさせるために、役割演技を行わせ（おおかみ：児童，くま：教師），くまの後ろ姿を見送るおおかみの気持ちを共感的に問う。</p> <p>【深める問い①】</p> <p>○ 親切の価値にせまるために、今まで意地悪をしていたおおかみがうさぎに親切にした理由を分析的に問い、おおかみの表情図をかかせる。</p> <p>【深める問い②】</p> <p>○ 温かい心で親切にする心地よさを感得させるために、意地悪をしたときの表情と親切をしたときの表情を比較した後、親切にしたときの気持ちを分析的に問い、快感情のキーワードを黒板にまとめる。</p>
見つける	<p>3 本時で明らかにした親切の価値をもとに、自己の生き方についての考えを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達が準備が間に合わないとき、手伝ってあげたい。 ・分からない問題があつて困っている友達がいたら、教えてあげたい。 	<p>○ 自分との関わりで考えを深め、実践意欲をもたせるために、学校生活の中で親切にしている場面の写真を提示する。</p>

B7【親切, 思いやり】「身近にいる人に温かい心で接し, 親切にすること」
 教材名「はしのうえのおおかみ」(東京書籍)

ひとに やさしく できる
 じぶんを みつけよう。

はしのうえのおおかみ

「いらい、いらい、もどれ、もどれ。」

おもしろい。
 だるい。

いらいだけ

あいそも

うれしかった。
 わんわんした。
 びびりした。
 やさしくな。
 ありがとう。

くまの後ろ姿をいつまでも見送っているおおかみは、どんなことを考えているのでしょうか。
 うれしかった。
 心が大人にもやそみよう。

うれい
 あそび
 あそび
 あそび
 あそび
 あそび
 あそび
 あそび
 あそび
 あそび

主な発問

○つかむ

「やさしくされてうれしかったことはありますか。」

「やさしくできる自分になりたいですね。」

人にやさしくできる自分を見つけよう。

○見出す

うさぎを追い返して橋を渡ったとき、おおかみはどんな気持ちでしょうか。

役割演技をさせる。(おおかみ:児童 うさぎ:教師)

【広げる問い】

くまの後ろ姿をいつまでも見送っているおおかみは、どんなことを考えているのでしょうか。

おおかみが考えていることを吹き出しに書かせる。

【深める問い①】

どうしておおかみは、うさぎにやさしくしたのでしょうか。

いじわるをしていたおおかみが、うさぎにやさしくした理由を発表させる。

【深める問い②】

いじわるなのにこのこと、やさしくしたのにこのどちらが好きですか。

自分が好きなことにこの理由を発表させる。

やさしくすると相手がうれしいから、自分もうれしい。

○見つめる

みなさんが、おおかみのようにやさしくしたことを話してください。

○成果と課題・改善策 (◎成果, ●課題, →改善策)

【つかむ段階】

◎友達など身近にいる人にやさしくされているが、自分は人にやさしくできているか自信のない実態を確かめることで、めあてをつかませることができた。

【見出す段階】

〈広げる問い〉

◎「広げる問い」の前に、役割演技をさせたり、くまの後ろ姿の挿絵を提示したりしたことで、おおかみの気持ちに共感させることができた。

●くまの行為に対する驚きを考えに書いている子どもが多かった。

→おおかみとくまの行為の違いや、くまのやさしさをおさえてから、吹き出しに考えを書かせるようにする。

〈深める問い〉

◎「深める問い②」で、意地悪をしていたときの表情図と親切にしたときの表情図を比較したことで、親切にするものの価値にせまることができた。

●親切にすると「相手がうれしい」「自分がうれしい」の両方向で考えさせたために、その後の見つめる段階で、子どもが相手と自分のどちらの立場で自己を振り返ればよいのか分かりづらかった。

→親切にすると「自分がうれしい」ことに重点を置くようにする。

〈表現活動〉

◎役割演技を用いて動作的表現活動をしたことは、おおかみの気持ちを自分事としてとらえ、共感させる上で有効だった。

◎書く活動を用いて言語的表現活動をしたことは、子どもたちの多様な感じ方や考え方を引き出す上で有効だった。

【見つめる段階】

◎実際に親切にしている場面の子どもの写真を提示したことで、親切にしたときのうれしさを子どもが実感をもってとらえることができた。

●生活場面の写真が2枚で限定的だったために、子どものこれからの展望が広がらなかった。

→生活の中での親切な行為の場面を多く提示し、様々な場面で親切な行為を行おうとする実践意欲をもつことができるようにする。

○表現活動、対話の様子

【考えをノートに書く】



【役割演技】

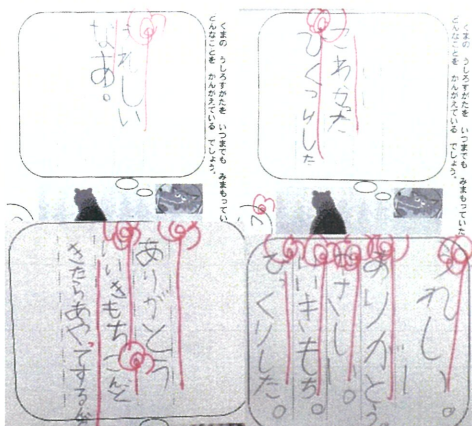


【全体交流】



○子どものノートや発言

【広げる】



【深める】

わたしは、やさしくしたときの顔が好きです。うさぎもうれしそうだし、おおかみもうれしいからです。



【価値理解～見つめる】

わたしも、帰る用意をするとき、係の仕事をしている友達のランドセルを運んだことがあります。

